

4 / 2 3 提出課題 現代社会 予習プリント その1

1年 組 番 氏名

○青年期の意味 (p 28)

青年期 …子どもからおとなへと大きく変容し、成長をとげる時期とされるが、様々な説がある。

1. 子ども扱いされることを望んでいないが、おとなとしては認められていない。
ドイツの心理学者レヴィはこれをマージナルマン= () とよんだ。
2. 大人になるための準備期間。社会人としての責任や義務をある程度免除してもらえ、自由に行動できる。
アメリカの心理学者エリクソンはこれを () の期間 (猶予期間) とよんだ。

☆おとなになるとは？

自我同一性= () が確立していること by エリクソン

※「自我」とは、自己の中にある「おれ」・「わたし」という意識。自分についてのイメージ。
青年期に明確に現れるが (→「自我のめざめ」)、残念ながら現実と一致していないことも多い。
そのギャップが激しいとき、周囲の人たちから「自意識過剰だ。」といわれる。ひとりよがりということだね。
自我同一性とは、自分の実際の姿と、意識の中での自分についてのイメージが一致している状態である。

問 「自我同一性が確立」しているとは、どのような状態のことをいうのだろうか。

○自我のめざめ (p 29)

青年期、身体的にはおとなと変わらなくなる=第二性徴 →異性を意識するようになる=「性へのめざめ」
しかし、精神的には未発達 →この身体成長と精神状態のアンバランスによって青年期は非常に不安定となる。

↓

親や教師といった、すでにある権威や制度に反抗し、自分時瓶の判断で行動したいという欲求が高まる
=第二 () 期。これは親などに頼っている状態から抜け出し、自立に向けて踏み出す第一歩である。
これを () 的離乳という。ルソーはこれを「第二の誕生」とよんだ。

このように親から距離をとり、親とは違った態度や価値観、行動パターンを選ぶことによって自分というものを確立しようという動きを「() のめざめ」という。

問1 (1) 青年期はなぜ不安定になるのだろうか、理由を書きなさい。

(2) ルソーは「自我のめざめ」を「第二の誕生」とよんだ。

ルソーは次のようにいっている。

「人は2度生を受ける。1度目はこの世に生を受けるために。2度目は自分になるために。」

「第二の誕生」とは、どういうことだろうか。自分のことばで書きなさい。

問2 自我にめざめる青年期は、危機の時代 (あぶない時期) ともいわれる。なぜだろうか。

1年 組 番 氏名

○悩みと相談 (p 30)

体と心の急激な発達 →感情の起伏が激しくなる →孤独感・不安感・劣等感に敏感に反応＝鋭い感受性

ex 自分の容姿 (外観)・才能・性格などを他人と比較してコンプレックスを感じ、他人の前でおくれする

↓

ほとんどの人が、心の奥に「さまざまな悩み」をかかえる →すぐに解決することはない cf 自我同一性

↓

このような時、心おきなく相談できる相手がいることは大いに助けとなる。

問1 青年期に多くの人が心の奥に様々な悩みをかかえるのはなぜだろうか。

問2 私たちが抱えている心の悩みはすぐに解決することは難しい。そのような時、どうすればよいのだろうか。

○欲求と防衛機制 (p 30)

青年期：悩みをかかえつつ自己形成(「自分」というものを確かなものにする)の課題に取り組む時期

→社会環境に()しながら行動していくことが求められている

☆社会に適応するには

1. 欲求をより高いもの(高次元)にしていく

欲求 …行動の原動力となるもの →アメリカの心理学者マズローによる欲求の構造

(欲求の5つの階層)

Level 1 生理的欲求(最も基礎的) …飢え・渇き・睡眠・排泄・性 etc.

Level 2 安全の欲求 …恐怖・危険・苦痛からの回避、健康 etc.

Level 3 所属と愛情の欲求 …家族・学校・職場 etc.に属していること、愛情・友情 etc.

Level 4 自尊の欲求 …尊敬・承認・名誉 etc.

Level 5 自己実現の欲求(高次元) …人生の目標の達成、生きがいの追求 etc.

※マズローは、Level 1から始まる基礎的欲求がある程度満たされると Level 5のような高次元の欲求があらわれるとした。Level 1から Level 4までは、満たされないと不安や緊張を感じるという。

問1 あなたの現在の「欲求」は、どの Level だろうか、考えてみよう。

問2 どうして低いレベルの欲求にとどまっていたはいけないのだろうか、考えてみよう。

4 / 2 3 提出課題 現代社会 予習プリント その2 (うら)

○欲求と防衛機制 (p 3 0 つづき)

2. 防衛機制を身につける

自分の欲求がすべて思い通りになるわけではない

→このとき人は欲求不満= () や葛藤= () の状態におちいる

欲求不満 …欲求が満たされず感情がいらだち、深刻な不安におちいる状態

葛藤 …対立する2つ以上の欲求が同時にあって、どうするか決めかねている状態

↓

いずれも不適応な状態。このとき、人は自我を傷つけず自分自身の内部で無意識のうちに解決していこうとするはたらきがある。オーストリアの精神分析学者フロイトはこれを防衛機制とよんだ。

これができない人はすぐに「キレ」たり、「ムカついた」状態になってしまう。

(防衛機制)

抑圧 …いやなことを無意識の領域に押し込め、忘れようとする。

合理化 …理由をつけて自分の行動を正当化しようとする
ex 「私がふられたのは、相手がわがままだったから。」 etc.

同一視 …自分を素晴らしい地位の人と同一視し、満足を得る
ex 特定のプロスポーツ選手を熱心に応援する、特定の芸能人を追いかける etc.

投射 …自分のマイナス部分を他人のせいにする
ex 自分がケチなのに、相手の節約をせめる etc

反動形成 …実際とは逆の態度や行動をとる
ex 好きな相手に、わざと嫌っているようにふるまう etc.

逃避 …空想の世界や妄想、関係のない行動や病気に逃げ込む
ex 明日の試験に向け勉強しなきゃいけない時に、部屋の掃除がしたくなる

退行 …幼児期の段階に戻る
高次元の欲求をあきらめ、基礎的欲求を得て満足しようとする

※防衛機制はあくまでも緊急避難的なもので、自分が傷つかなければそれでよいとする姿勢は、自立に向けての道を遠回りし、青年期の課題を先のぼしにするだけである！

→ 大いに悩み、いろいろな人と語り合うべき。“若いときの苦労は買ってでもせよ”。

問1 私たちの欲求は常に満たされるわけではない。そのとき、すぐにムカついたりキレたりして反社会的な行動に出るなどしないためには、何が必要だろうか、上の記述をよく読んで考えよう。

問2 あなたは、自分や他人の防衛機制のうち、どれを経験したことがあるだろうか。具体例をあげてみよう。

問3 防衛機制は自分を傷つけないためのものではあるが、マイナス面も大きい。それはどのようなものだろうか。